（社）日本家政学会大会・家政教育部会企画
2010年5月30日（日）13:30～15:30
広島大学、I会場 （L107）

家族生活教育（FLE）アメリカ合衆国の状況

富士市議会議員　山下いづみ

Family Life Education とは

- 目的

  「健康でまわりの人と良い関係を保ち、より良い社会・家庭生活が送れるように、幅広い知識を有する専門家が個人・家族に対してサポートすること」

  http://www.ncfr.org/cert/FLE_presentation.ppt の中のFLEの目的を要約.

- ポイント

  個人、家族へ

  「予防」　「教育」　「協力、共同」

Family Life Education（FLE)とは

★　問題発生後の対応ばかりのケアから未然に防ぐサポートの重要性の認識高まる。80年代半ばより浸透しはじめる。

★　女性に教育～家族社会学～社会福祉・社会心理学～(予防・防止が再認識され）人・物・環境を含む家庭教育＝**家政学がFLEの基盤となっていく。**

Family life education の歴史

FLE は社会問題発生時や、社会の変化に家族が適応することが大変な時に発達していった。

- １７７６－１８６０＝助長時代
  女が女に女の仕事とは何であるかを教育
  家、サークルが各々やっている
- １８６１－１９００＝出現時代
  化学、物理—栄養
  高等教育で若い女の人の教育：家庭科一般
  社会学、社会福祉　問題を家庭、社会の関係から見る　市民戦争、大恐慌１８７３

参考 Handbook of Family Life Education: Foundations of Family Life Education Volume 1 1993 SAGE Publications, Inc.

Family life education の歴史

１９０１－１９２０＝具体化時代

- 多種のプログラムが多種の目的によって作成
- 家族社会学がFLEの基本になっていく
  一教育、研究
- 社会福祉（ケースワーク）ｖｓ.社会心理学
- 国レベル：子どもの福祉、ケア、家庭に子育てなどの実用的な情報
- 親業、ボランテイアサークル増す

Family life education の歴史

１９２１－１９５０＝拡大時代

- 全国親業審議会発足 ‘２４
- WWII後、社会観の変化、科学、テクノロジーの発達一家庭に影響
- 防止、予防型が再認識される
- 人、物、環境を含む家庭教育
- 家政学がFLEプログラムの基盤となっていく

Family life education の歴史

１９５１－１９９０＝定着時代

- ‘５０：社会困難―　離婚、性、社会（研究）
- ‘６０：ベトナム戦争等　同棲、ドラッグ、フェミニズム：人間発達学、家族関係の導入、必要性（研究）
- ７０ｓ：予防、防止―企業が公共にFLE提供
- ８０ｓ：５０ｓ-８０ｓ中学生以上に親業；離婚、別居、幼児虐待対策を国、州、地域一家族関係の法案
- ８０半ば：FLEの資格

就職

- Human services
- Parenting education
- Premarital & marriage education
- Caregiver&long term care programs
- School& educational settings
- Family law settings
- Developing curriculum
- Adoption agencies
- Non-profit administration
- Grant-writing
- Public policy settings
- Medical settings　etc.

Practice　現場
Administration　運営
Promotion　普及

学校
NPO
政府、行政機関　など

就職

年収　＄17,000~45,000

時給　＄16

- 大学機関
- エクステンション
- 学校・幼稚園・保育園
- 病院・保険センター
- 公共家族ケアサービス、NPO （離婚、DV防止、ドラッグ・アルコール防止、親、こども向けプログラム、ファイナンシャル、フードアシスタントなど）
- 老人養護施設、福祉機関
- 家族研究、カリキュラム、ファミリーポリシー作成など

公共サービス事例

インディアナ州立大学
- 家の購入
- フードバンク～親教育
- 家庭内暴力

ミシガン州立大学大学院
- ACTS
- Cap
- Parenting（裁判所）
- Extension（離婚家族）
- Parenting（夫婦）

- よりよい生活のために
- 予防・防止サポート
- 問題解決

全米家族関係審議会（NCFR） www.ncfr.org

- 1938年設立 （全米でもっとも古い家族サポート審議会）
- 分野は心理学、社会学、多文化家族、家族の健康、セラピー、職場問題、親業、家庭のストレス、ジェンダーロール、離婚、家庭内暴力、青少年問題、老後、子供発達、ライフサイクル（人の一生）など、多岐に渡っている。
- 家族へのよりよいサポートとして、唯一、**教育、研究、実践**を重視したプロフェッショナルの組織。

- ホワイトハウスや国連から顕著（アウトスタンディング）な家族、こどもサポート提供と賞賛されている。
- ジャーナルの発行
  - ＊Family Relations （家族関係）
    多くの学問分野にまたがる家族科学の実用的ジャーナル
  - ＊Journal of Marriage and Family（結婚と家族）
    全米で最も古く、トップ5にはいる社会科学の学術雑誌

FLE資格取得

・資格取得の利点

自尊心・就職活動

大学卒業以上、継続した教育（研修）、資格取得のプロセス
予防重視、多面的アプローチ

・ 資格～専門家、スペシャリスト～社会への認知

就職　　回収率30%　41歳以上75%
39%　大学機関　　22%　家族、親むけ公共教育サービス

資金
　57% 政府助成金　35%複数の助成金　（2005年NCFRのアンケートより）

FLE１０の分野

1	社会と家族（社会と家庭のつながり）	➢ 家庭と環境 ➢ 男女の役割りの変化（ジェンダーロール） ➢ 地域性　など
2	家族関係	➢ コミュニケーション ➢ ストレス、対立マネージメント ➢家族の危機管理　など
3	人間発達学（人間の一生；ライフサイクル）	➢ 胎児期、乳幼児期、思春期、青年期、中年期、老年期における身体、感情、知性、社会性の発達　など
4	人間の性	➢ 身体のしくみ ➢ 性と人間関係、夫婦関係 ➢ 家族計画　など
5	人との関わり方、自分との関わり方	➢ コミュニケーションスキル ➢ 人間関係の円滑（社会、家庭、友達、夫婦）

6	家庭財源の管理のしかた	➢家族構成 （年齢、状況など） ➢消費、家計簿 ➢社会の影響など
7	ペアレンテイング（親業）	➢ 親と子の関係 ➢ 年代、年齢とともに変わる親の役割 ➢ 多種多様なペアレンテイングのし方 など
8	家族に関したきまりと法律	➢ 公共サービス ➢ 家族と教育、経済、宗教 など
9	家族生活教育の専門家のありかた	➢ 多種多様な社会の価値観 ➢ 倫理とテクノロジーの変化 ➢ 家族生活教育専門家としての実践、教育 など
10	家族生活教育方法論	➢家庭教育プログラム計画、調査、作成、査定、評価スキル ➢教育（教える）スキル ➢人への気配り、コミュニテイーの把握 など

CFLE Requirements　　FLE資格取得の条件

Level of Certification	Family Degree from an NCFR-Approved Program (Earned with past two years)	Family Degree from a non-NCFR-Approved Program	Family Degree from an NCFR-Approved Program (Earned more than two years ago)*	Non-Family Degree i.e., counseling, social work, business, etc.
Provisional Certification ®	Complete Abbreviated Application	Complete CFLE Exam	Complete CFLE Exam	Complete CFLE Exam
Full Certification ®	Complete Abbreviated Application and submit FLE Work Experience Summary form	Complete CFLE Exam and submit FLE Work Experience Summary form	Complete CFLE Exam and submit FLE Work Experience Summary form	Complete CFLE Exam and submit FLE Work Experience Summary form
Work Experience Requirement ®	Bachelor's degree = 3,200 hours Master or Ph.D. degree = 1,600 hours			4,800 hours regardless of level of degree

ポートフォリオから試験へ移行　　2007年11月

FLE資格取得

★　資格　２種類

Provisional　暫定的資格　　FLE10分野の知識
Full　　正式資格　　FLE10分野の知識、ワーク経験

★　資格取得　　２つの方法

米国、カナダ１１０学校

Provisional　＊NCFR認証の大学カリキュラム習得
＊CFLEテスト　　１５０の選択問題　年３回

Full　　＊CFLEテスト＆ワーク経験
＊Provisional資格＆ワーク経験

５年ごと更新

★ワーク時間＊家族関連の専攻　大学　３２００hr.　大学院　１６００hr.
＊その他の専攻　　大学、大学院　　４８００hr.

★　取得者　約１６００人（２０１０．５月）

アメリカ合衆国では
Family life education　家族生活教育の専門家は、
様々なファミリー関連の職場で
多様な家族ニーズに、
多面的角度から、総合力を活かし、
対応をしている。

山下HP

http://www6.plala.or.jp/izumiful